



あじす

AJISU

発行：阿知須町役場
〒754-1292
山口県吉敷郡阿知須町2743
TEL.0836-65-4111
<http://ajisu.com>

さあ踏み出そう 新しい歴史と 夢の第一歩



いよいよ十月一日に、阿知須町は山口市・小郡町・秋穂町・徳地町と合併し、新「山口市」として新たなスタートをきることになります。

昭和十五年に阿知須町が誕生して、今年で六十五年。それぞれの時代を生き抜いて来られた先人の英知とたゆまぬ努力によって築かれたすばらしい歴史は、阿知須発展の土壌となり、蒔かれた種は今、大きく成長し花開こうとしています。

合併により阿知須町としての歴史に幕が閉じられますが、

皆が阿知須を愛する限り「ふるさと阿知須」は皆さんの心の中で燦々と輝き続けることと思います。

さあ、新しい時代が幕を開けようとしています。私たちは山口市をリードする新県都の創造に一翼を担い、さらに大きな志をもって先人から受け継いだ進取の精神で未来を切り開く時がきたのです。

阿知須の元気をしっかりと新市へ引き継ぎ、さらなる阿知須の発展を実現できるよう共に、新しい歴史と夢の大きな第一歩を踏み出しましょう。



決されましたが、住民の意見を反映しないまま議決にいたったと町民からの批判を受け、町議会は議決を取り消すという異例の事態に。新市合併か宇部市合併か住民投票を実施して結論を出すべきということになり昭和29年6月29日、住民投票を実施。結果、宇部市との合併を望む票が過半数をしめ、宇部市へ正式に合併を要望し、合併促進に乗り出すことになりました。

宇部市へ合併を要望したが…

しかし、宇部市から合併至難の正式回答が出されたため、本町は「新市建設」へ方向転換。議会の議決を経て新市建設へ向け動きだすも、山口市議会議員選挙で山口市南部地域分離賛成議員が落選。新市建設の話は消え、急浮上したのが、宇部市合併派が推進した町



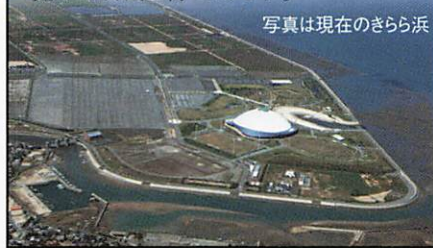
昭和22年～
1947

消えた遠石島

阿知須発展の基盤となる 阿知須干拓地の開拓へ

農業用地確保のため昭和22年から始まった国営干拓事業。当時阿知須の沖合にあった遠石島は干拓地の一部に姿を変えました。昭和41年に完成したもののその後の減反政策により、286ヘクタールにも及ぶ干拓地は利用目的が見いだせないまま、静かに時を刻み目覚めの瞬間を待つのです。

写真は現在のきらら浜



長のリコール運動でした。町長は合併問題の責任を負って辞任。町長辞任に伴う町長選挙で新市合併賛成派の推す候補者が当選し、合併に伴う混乱は沈静化の方向へ向かいました。

昭和19年～
1944

阿知須町誕生!しかし…

大山市構想によりわずか 2か月で山口市へ編入

戦時中に発表された大山市構想

阿知須町誕生から4年後の昭和19年、県知事により阿知須・小郡・陶・名田島・二島・嘉川・佐山を山口市に編入する大山市構想が発表されました。戦争の真っ直中、上級官庁からの指導は絶対という時代に、本町を含む2町5か村は発表から2か月後の4月、山口市へ編入されました。

敗戦により山口市から分離独立へ

しかし翌年、敗戦により世相は一変。山口市南部地区の山口市分離問題が急浮上。分離については隣接町村が共同歩調をとり進めていくという方針でしたが、実状の違いから足並みは乱れ、阿知須は昭和22年11月23日に小郡は昭和24年に山口市から分離独立を実現しました。



平成8年～
1996

いよいよ花開くとき

サンパークあじすの開店で 阿知須も便利になりました

町も資本参加した第3セクター「阿知須まちづくり株式会社」が建設した「サンパークあじす」は中国寿屋を核店舗に平成8年3月20日にオープン。現在はサンリブ阿知須店が核店舗となり阿知須町の中心商業施設として近隣の買い物客など多くの人で賑わっています。



昭和39年～
1964

難事業に着手

将来を見据えた大事業 墓地移転と岡山霊廟建設

町の一夫事業として昭和39年度から本格的に取り組まれた砂郷墓地の移転事業。岡山合同納骨塔は、昭和42年に完成しました。墓地の移転事業により区画整理や都市計画街路事業も進み、阿知須町発展の基盤が整いました。



が、蓋(ふた)を開けてみれば観客動員251万4,178人を記録し大成功。体験型のパビリオンやおもてなしの心が人々の心を魅了し、リピーターの多い博覧会となりました。

花開いたボランティアの心 町民も「一人一役」

本町でも「一人一役で成功させよう」を合い言葉に町民ボランティアがきらら博を盛り上げました。あの熱く燃えた79日間は、町民一人ひとりの心の中に今も焼き付いています。





若山産業の誘致と 国際貿易港 山口港の誕生

昭和46年7月に関税法の開港指定を受け、国際貿易港となった山口港。町の工場誘致第1号として昭和38年に進出した若山産業(株)へ外国貿易船が入港し、本町の産業発展に寄与しました。

ようやくこぎつけた開港でしたが、若山産業(株)の倒産に伴い船の入港は途絶え、平成16年12月31日、国際貿易港として最後の目を迎えました。

観光資源の開発へつながった 温泉開発が招いた財政危機

町営阿知須ラジウム温泉は昭和31年11月オープン。町の世紀的事業として位置づけられるも、経営不振に陥り、町は財政危機に陥りました。町財政再建のために地方財政再建促進特別措置法の適用を受けるしかないと決断。町は昭和34年、赤字再建準用団体に適用され宇部ゴルフ観光(株)へ温泉施設とともに町有林を売却しました。同社はゴルフ場と温泉経営に着手。現在、本町の観光産業の一翼を担っています。



揺れた昭和の大合併は 町長のリコール運動へ発展

合併するなら宇部か新市建設か—合併問題で町を2分した昭和29年。昭和28年に合併促進法が制定以来、阿知須町も県から山口市南部地域と小郡町を合併して新市をつくるのが提唱されましたが、町民の意見が真っ二つに分かれたため住民投票に発展する事態となりました。

議会も混乱、そして住民投票へ

当初、町執行部は議会に諮り新市建設の方針を固め、小郡町との間に覚え書きを交換。町議会で賛成12反対8で可

阿知須町は今年で65周年 山あり谷あり…振り返れば色々ありました

昭和15年11月3日に井関村から町制を施行し阿知須町が誕生して65周年を迎えた今年。阿知須町は新たな節目を迎えます。10月1日、阿知須町は県央地域の1市4町で新「山口市」として大きな一歩を踏み出します。町民の皆さんと歩んだこの65年を駆け足で振り返ります。

阿知須町 65年の軌跡

あじすの重大ニュースを2ページにピックアップ



30万中核都市建設を目指し 1市4町が新たなる出発

そして訪れた平成の大合併。合併するなら宇部小野田地域か県央地域かで枠組みを模索していた阿知須町。果たして阿知須の進むべき道は…。昭和の大合併時のような同じ轍(てつ)は踏むまいと合併説明会などを重ね、熟慮の末、県央地域への参加を決断。紆余曲折ありましたが、1市4町が心をついに、新市建設に向け力強い一歩を踏み出します。

祝

成長期に入った阿知須町

快・適・環・境・あじす 人口は9,000人を突破

山口きらら博の開催に伴い、県道山口・阿知須・宇部線の開通や山陽自動車道の宇部有料道路への連結などで交通網はさらに広がり「すべての道は阿知須へ通じる」とまでいわれる交通至便の地となりました。

便利な交通アクセスと商業施設や公共施設の充実など暮らしやすさから、アパート建設や住宅開発も進み、人口も着実に増加。人口増加率も県下でトップクラス、また今年5月には人口が50年ぶりに9,000人を突破するなど元気まち阿知須はまだ成長中です。



みんなの心に焼き付いた 山口きらら博

前評判をくつがえすうれしい結果 山口きらら博は大成功

平成13年7月14日から9月30日まで開催された山口きらら博。ユニバーサルスタジオジャパンのオープンやうつくしま博、また北九州博開催と重なり、当初200万人の観客動員は難しいという前評判でした



閉町式

町制施行65周年記念式並びに



元気なまち いつまでも
惜別と期待を胸に



町制施行65周年記念式並びに閉町式が9月22日、町公民館で挙行されました。町民ら250人が出席し阿知須の歴史を閉じる最後の式を見守りました。

式典では、町の歴史を刻んだ懐かしい映像を上映。故郷の65年の歩みに想いを馳せながら、町長と議長により町旗が退納され、静かに阿知須町の閉町を惜しみました。また、式典後には閉町記念碑を除幕。阿知須の元気を新市へ引き継ごうと記念碑には「元気なまち いつまでも」と刻まれています。

町制施行65周年記念 あじす町民のつどい

町制施行65周年記念「あじす町民のつどい」を9月3日、阿知須小学校で開催しました。演芸会と橋下弁護士による講演会の二部構成。会場は残暑と笑いで熱気ムンムン。阿知須の笑い納めとなりました。



吉本興業一押し イシバシハザマ

あじす町民のつどい



ザ・ぼんちの掛け合いに会場も大爆笑



町政伸展の功労者23人7団体を表彰

感謝状を1人6団体に授与～長きに渡りご尽力いただきありがとうございました

- 地方自治功労**
長久清忠(小古郷西)
新田悦三(中村)
松本 俊(巨北)
中野真也(縄田南)
国重弘之(源河)
酒井好孝(南祝)
中村昭三(西条)
村田輝雄(向井関)
平海武(小古郷西)
山根傳美子(引野)
- 産業振興功労**
徳永孝(若倉西前)
久都内博嗣(杖川)
柳井ヨシ子(引野)
野村大象(沖の原)
阿知須肉牛組合
福嶋牧場
- 教育・芸術文化功労**
松田芳行(野口)
松代光正(砂郷)
中野真琴(縄田北)
玉川闘鶏踊り保存会
- 社会福祉功労**
中尾理恵子(南祝)
金重幸子(小古郷西)
井上恵子(巨北)
河野希子(赤迫)
青木 潔(洪)
村田ツエ子(築地)
道楽倶楽部
「小さな親切運動」
阿知須支部
阿知須町更生保護
女性会
阿知須婦人会
- 感謝状・個人**
中川喜子(袖茶川原)
宇部興産開発(株)
松山山陽堂(西条)
中尾元彌(物産店(南祝))
吉南医師会
吉南歯科医師会
吉南薬剤師会
(敬称略・順不同)



広報あじす
編集室から

広報あじすは今回が最終号！これまでご愛読いただきありがとうございました。思い起こせば平成十一年の四月、思いがけず広報担当課へ異動し、走り続けた六年半。多くの人に支えられ今月、無事にお務めを終えようとしています。ご指導いただき、支え励ましていただきました皆様、本当にありがとうございました。

広報の使命は、行政情報の伝達はもちろん、地域の歴史や隠れた魅力、そして町民のみならずの元気をあらわす「超ローカル紙」と考え、広報づくりに励んでまいりました。毎月迫りくる締切や特集ネタの掘り起こしに眠れない日々も続きました。が、これまでの広報をめぐると、その一ページ一ページにそのときの想いや町民の皆さんとのやりとりが蘇り、広報担当になつて良かったと実感しています。

広報あじすは昭和二十六年に発行。その時代をうつした広報あじすは、六百四十六号をもってその使命を終えます。まちの記録、そして皆さんの思い出がぎっしりとつまった広報紙。これからは「市報やまぐち」がその役割をしっかりと引き継ぎ、阿知須のそして皆さんの元気を伝えることとなります。